

鳥江亭に題す

杜

牧

勝敗は兵家も事期せず

羞包恥恐は是れ男兒

江東の子弟才俊多し

卷土重来未だ知る可からず

【作者】杜牧 八〇三年〜八五二年 晚唐の詩人。字は牧之(ぼくし)、号は樊川(はんせん)、京兆万年(けいちようばんねん)陝西省

長安(長安)の人。名家の出身にして八二八年進士に及第後、地方、中央の官を歴任し中書舍人(ちゆうしよしやじん)となつて没す。

資性剛直、容姿美しく歌舞を好み、青楼に浮名を流したこともあった。「樊川文集」20巻、「樊川詩集」7巻あり、

「阿房宮賦」(あぼうきゆうふ)は早年の作にして文名を高めた。年五十歳。

【語釈】*鳥江亭…安徽(あんき)省和県の東北にある駅亭 *兵家…軍人戦略家 *事期…予期できる事ではない

*包羞忍恥…恥辱に耐える *江東…江南と同じ 長江下流付近 今の江蘇省南部から浙江省北部にわたる一帯を指す。

*子弟…若者 *才俊…優れた人物 *卷土重来…負けた者が土を巻き上げるような勢いで領土を占領し再び盛り返

して攻めてくる *未可知…どうなつていったかその結果は分からない

【通釈】勝敗は、戦略家でさえも予測できるものではない。たとえ敗れても恥辱に耐え再起を計つてこそ真の男子といえる。

項羽の本拠地である江東の若者たちには優れた人物が多いので、土けむりを巻き起こすような勢いで今一度出直していたなら、どうなつていたか分からない。